

SF-837 (ミデカマイシン) の臨床的検討

山作房之輔・武田 元・庭山昌俊・川島士郎・木下康民

新潟大学医学部第二内科教室

貝沼知男

新潟労災病院内科

関根 理・薄田芳丸

信楽園病院内科

SF-837 は *Streptomyces mycarofaciens* nov. sp. により産生されたマクロライド系新抗生物質で、主にグラム陽性菌に対し優れた抗菌力を示す。私どもは少数例ではあるが、臨床的に検討し、興味ある成績を得たので報告する。

成 績

臨床成績を一括して、表1に示した。対象は10症例で、その内訳は呼吸器感染症8例、リウマチ熱1例、慢性腎盂腎炎1例である。効果判定は化学療法学会における抗生物質使用に対する判定基準に準じた。治療効果は10例中有効8例、無効2例であった。疾患別にみると、気管支炎3例中2例に有効、1例は無効、肺炎3例はすべて有効、気管支拡張症1例は有効、肺化膿症1例は無効であった。また、リウマチ熱1例、腎盂腎炎1例はともに有効であった。副作用として特別なものは認められなかった。なお、症例5のトランスアミナーゼ値は同時に合併していた慢性肝炎のために上昇していたものである。

本剤がL型菌の腎盂腎炎(症例7)に有効であったので、その詳細を述べる。

症例7 23才女。全身倦怠感、微熱、赤沈値亢進、CRP陽性、蛋白尿を主訴として某病院から転入院した。外来時に尿沈渣に多数の白血球と 10^5 /ml以上の大腸菌を認め、AB-PCを内服し、大腸菌は消失した。入院後も微熱が続き、尿沈渣に中等数の白血球が毎回認められ、Nalidixic acid、次いで再びAB-PCが用いられたが尿所見は改善しなかった。尿のL型菌培養を行なつたところ黄色ブドウ球菌のL型菌が検出され、AB-PCによる誘導と考え、SF-837を1.2gずつ内服させたところ、1週間後の尿中からL型菌は消失し、尿中白血球も1視野に2~4個となった。本例は腎生検の結果、アミロイド腎症と判明し、腎盂腎炎が合併したもので、アミロイド腎症に対してはなお入院経過観察中である。

考 按

SF-837のグラム陽性球菌に対する抗菌力はMacrolide系抗生剤の薬剤の中でJosamycinに最も類似しており、肺炎球菌、レンサ球菌の多くは1mcg/ml以下で、ブドウ球菌の多くは1mcg/ml前後で発育阻止される。

私どもの症例は呼吸器感染症が多く、その起炎菌の決定は慎重でなければならないが、肺炎球菌、マイクロコッカス、レンサ球菌を検出した6例中5例が有効であった。症例5の慢性気管支炎は体温上昇もなく、赤沈亢進も著明でなく、感染所見に乏しかつたが、自覚症状が改善しなかつたので無効と判定した。症例8の肺化膿症はクレブシエラが検出されており、無効であったが、細菌学的には不適応な症例であった。症例1にヘモフィルスが検出されており、本菌はMacrolide系抗生剤に感受性でないが、SF-837が有効であったことはヘモフィルスが混在菌であったためと考えられる。

症例7のブドウ球菌のL型菌を検出した腎盂腎炎は最初、外来で検出された大腸菌はAB-PCにより根絶され、アミロイド腎で、腎の局所的な抵抗減弱があるためにその後感染した黄色ブドウ球菌がAB-PCによつてL型菌に誘導されたものと考えられる。Macrolide系抗生剤は蛋白合成阻害を作用機序としており、グラム陰性菌のL型菌に対しても抗菌力を有するが、本例のL型菌は黄色ブドウ球菌であったので、親の菌に対しても抗菌力を有しており、極めて有効であった。

結 語

SF-837を呼吸器感染症8例、リウマチ熱1例、腎盂腎炎1例、計10例に使用し、8例に有効、2例は無効であった。本剤使用中に特記すべき副作用を認めなかつた。

表1 臨床成績

症 例			病 名	検 出 菌	SF-837 使用量		症 状 経 過		効果	副作用	備 考	
番号	氏 名	年 性			1 日 量 (g)	日 数	総 量 (g)	SF-837 開始時				終了時
1		60 ♀	気管支肺炎	ヘモフィルス肺炎球菌	1.2 分3	18	21.4	咳, 痰 体温: 38℃ 胸部X線: 左下肺野に気管支肺炎陰影 赤沈: 48.5	消失 平熱 消失 30.5	有効	(-)	
2		57 ♀	慢性気管支炎	マイクロコッカスレンサ球菌	1.2 "	17	21.4	咳, 痰 息切れ 胸部X線: 両下肺野に気管支拡張症像 赤沈: 22	軽快 平熱 軽快 好転 19.5	有効	(-)	
3		44 ♀	気管支拡張症	レンサ球菌 ナイセリア	0.8 分4	14	11.2	咳, 痰 体温: 38.4℃ 白血球: 8,600 CRP: (++) 赤沈: 22.5	ほぼ消失 平熱 6,000 (-) 16.0	有効	(-)	
4		28 ♀	急性気管支炎		1.2 分3	12	14.4	咳, 呼吸困難 体温: 37.8℃ 乾性ラ音 白血球: 6,700 血沈: 14.0	消失 平熱 軽減 6,000 8.5	有効	(-)	肺結核の既往
5		46 ♂	慢性気管支炎	レンサ球菌 ナイセリア	1.2 "	9	10.8	咳, 痰 体温: 平熱 GOT: 52 GPT: 86 赤沈: 14.2	不変 平熱 90 12.5 29.5	無効		慢性肝炎を合併
6		63 ♀	リウマチ熱		1.2 "	36	43.2	紅斑, 関節痛 体温: 39.5℃ CRP: (+++) ASLO: 833	消失 36.5℃ (-) 333	有効	(-)	ブレドニゾロンと併用
7		23 ♀	慢性腎盂腎炎	L-form (黄色ブドウ球菌)	1.2 "	64	76.8	体温: 37.3℃ 尿中 L-form 尿中白血球: 多数/ 視野 白血球: 11,000	やや下熱 消失 4~6/ 視野 6,100	有効	(-)	アミロイド腎 AB-PC と併用
8		58 ♂	肺化膿症	クレブジエラ ナイセリア	第1~ 2日 1.2 第3~ 4日 1.8 分3	4	6.0	咳, 痰, 呼吸困難 体温: 38.8℃ 胸部X線: 右下肺野に円形透亮像 白血球数: 16,200	不変 39.0℃ 増大 20,300	無効	(-)	CER と AB-PC 併用に變更
9		35 ♀	急性肺炎	レンサ球菌 ナイセリア	1.2 分3	16	19.2	咳, 胸痛 体温: 37.6℃ 胸部X線: 左下肺野に肺炎像 白血球数: 7,900 赤沈: 54.5	消失 平熱 消失 6,200 32.2	有効	(-)	
10		68 ♂	急性肺炎	肺炎球菌	1.0 分3	11	11.0	咳, 痰, 呼吸困難 体温: 38.2℃ 白血球数: 8,500 赤沈: 7.5	消失 平熱 8,000 11.0	有効	(-)	

CLINICAL EXPERIENCES ON SF-837 (MYDECAMYCIN)

FUSANOSUKE YAMASAKU, HAZIME TAKEDA, MASATOSHI NIWAYAMA,
SIRO KAWASHIMA, YASUTAMI KINOSHITA

The Second Department of Internal Medicine, Niigata University School of Medicine

TOMOO KAINUMA

Niigata Rosai Hospital

OSAMU SEKINE and YOSHIMARU USUDA

Sinrakuen Hospital

SF-837 is a new antibiotic which is primarily active against gram-positive bacteria.

Clinical application was performed to 8 cases with respiratory disease, 1 case with rheumatic fever and 1 case with pyelonephritis. The results were excellent in 8 and ineffective in 2.

No significant side effects were seen at all.